

# 海の温暖化、確実に進行

## 気象庁が海洋CO<sub>2</sub>でシンポジウム



気象庁は3日、国際シンポジウム「温暖化予測の鍵、海のCO<sub>2</sub>」(写真)を開催し、海洋がCO<sub>2</sub>濃度に与える影響などについて、国内外の第一線の研究者が講演した。

これは、2と4日の3日間開かれていた「北西太平洋の温暖化とCO<sub>2</sub>吸収能力の監視予測に関する国際会議」の一環。海洋CO<sub>2</sub>の重要性を一般に周知する目的で開かれた。

まず、東北大学大学院

## 生態系に影響、吸収の弱まりも

理学研究科長・理学部長の花輪公雄氏が「海洋中のCO<sub>2</sub>は、物理、化学、生物などの過程が複雑に絡み合っており、気候モデルごとに扱いが異なる」と指摘。「見えな

いところで、静かに、しかし確実に海の温暖化が進行している」と警告した。

続いて、米国海洋大気庁太平洋海洋環境研究所のクリストファー・サイバイン氏が海洋生態系への影響について講演。過去200年で、炭素1500億トン分のCO<sub>2</sub>が海に吸収され、pH値が約0.1低くなったとし

た上で、「今世紀末までに、さらに0.3低下すると予測されており、海洋の生態系に多大な影響を与える可能性がある」とした。

さらに米プリンストン大学大気海洋科学プログラムのキース・ロジャース氏は「観測によると、北大西洋のCO<sub>2</sub>吸収が弱まっているようだ。モデルによる研究でも、南大洋の吸収が弱まっている可能性が指摘されている」と警鐘を発し、モデルとそれを制御する観測ネットワークの連携が今後の課題だと強調している。